

栽培特性に優れた普通期酒造好適米系統の育成

表 各系統の特性

品種 系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	耐いもち病 (弱～強)	精玄米重 (kg/10a)	玄米千粒重 (g)	心白 整粒割合 (%)	玄米蛋白質 含有率 (%)
高系酒394	8/29	10/10	83	やや強	330	22.6	52.5	7.39
高系酒403	8/22	9/29	78	強	314	24.0	78.1	8.00
高系酒404	8/25	10/ 2	83	強	388	23.8	69.3	7.67
高系酒405	8/31	10/13	84	強	328	23.2	69.3	7.40
高系酒413	8/23	9/29	80	強	317	24.6	77.4	7.41
高系酒414	8/24	10/ 3	88	やや強	381	27.2	74.6	7.38
R3-751	8/25	10/ 2	77	中	359	28.4	70.3	6.98
吟の夢(対照)	8/22	9/29	81	弱	362	26.0	63.5	7.82

注) 令和5年度の結果を示した。‘吟の夢’ に比べて、優れる形質を橙色塗り、劣る形質を青塗りで示した。



いもち病に弱い
‘吟の夢’



いもち病に強い
‘高系酒414’

図1 育成系統の耐いもち病

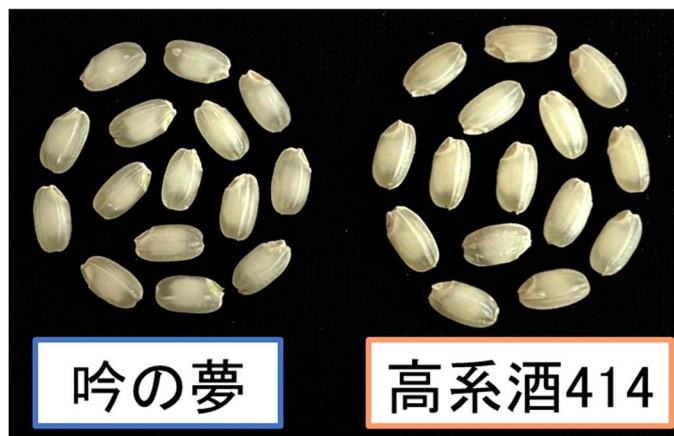


図2 玄米心白整粒の比較

高知県が育成した普通期酒造好適米品種‘吟の夢’は、令和4年産では180tが生産されている主力品種です。栽培は平野部～中山間部と県内で広く行われていますが、気象条件が異なる地域での栽培のため、酒造好適米で重視される心白整粒割合、玄米蛋白質含有率がばらつくなどの問題があります。

また、食用品種に比べ、いもち病に弱い、収量性が低いなどの理由から栽培地域における作付面積の大幅な拡大にいたっていません。

そこで、当センターでは県産酒造好適米

の品質の均一化、生産の安定化を目的とし、「栽培特性に優れた普通期酒造好適米品種の育成」を進めています。

現在、酒造好適米として有望な7系統を育成しており、ほとんどの系統が‘吟の夢’より、いもち病に強く、心白整粒割合は高く、玄米蛋白質含有率は低いという特性を示しています(表、図1、2)。

今後は、耐倒伏性や収量性等の詳細な栽培特性、酒造適性や醸造適性の調査、選抜を重ねて、新品種の育成を目指します。

(水田作物担当 武田 俊也 088-863-4916)